

地小出版  
方小版

情報誌

アクセス

毎月1回	1日発行
購読料	定価 150円 (本体 143円)
	年間 1,500円 (税込み)
振替	00120-0-19017

発行所 (株)地方・小出版流通センター  
編集 アクセス編集委員会

〒162-0836 東京都新宿区南町20  
TEL.03-3260-0355 FAX.03-3235-6182

## 文化の地産地消をめざして——★★★ 盛岡出版コミュニティーを起業、「もりおか文庫」を創刊

文・栃内 正行

平成21年の夏に岩手の文芸資産を、そこに住む者の視点でつくりあげたいとの思いから、「もりおか文庫」を創刊いたしました。

ありきたりのネーミングですが、地元盛岡、岩手の皆さんに馴染み深く思っていたのではないかと思い名づけました。また、盛岡市ではいろんな観点から「盛岡ブランド」を高めようと官民挙げて取り組んでおり、その一助になるのではないかと考えました。

起業に際し、屋号を「盛岡出版コミュニティー」としましたが、地元を拠点にさまざまな分野で活躍する人たちの力を借りながら、出版文化にける思いを結集する「共同体」になりたいと願うのでした。

### 文庫を企画出版の看板に、既刊3冊

11月に第一弾として盛岡在住で活躍されている作家、松田十刻(じゅっこく)氏による石川啄木の評伝『26年2か月啄木の生涯』を刊行し、翌22年の4月に第二弾を同じく地元在住でエッセイストとして活躍の澤口たまみ氏により、宮澤賢治の文語詩から読み解く恋人発掘の新説『宮澤賢治 愛のうた』を刊行しました。そして、8月には終戦65年の記念出版として、3冊目となる『遙かなるカマイシ』(松田十刻著)を送り出すことができました。この作品は終戦直前に艦砲射撃を受け灰燼に帰した鉄鋼の町、釜石に焦点をあて、意外と知られていない捕虜収容所をモチーフに展開するミステリー・ロマンスです。

さて、この出版不況下にあり地方において出版事業を立ち上げる、しかも利益額の小さい文庫による展開を図るとは、何とも無謀という声を多くいた

きました。

なぜ文庫を企画出版の看板にしたかという、書店勤務時代に感じた本の商材としての盛衰と読む時間の変化です。以前は不況の時こそ安くして為になる本が売れるという事実が確かにありました。エンターテインメント性、教養性、情報や知識の源という対象の一番に本がしっかり位置づけられていたのです。

しかし、インターネットをはじめとした通信環境の整備と高度化に、じわじわとその魅力を削り取られ、いつのまにか一般商品と同じように値ごろ感も購入の大きな目安となってきました。

また、生活様式の多様化で本を読む機会が読書時間から空き時間に求めるのが多くなり、いつでも読める携帯性に富む判型が販売に有利と判断したからです。

### 創刊の『26年2か月啄木の生涯』は、初版2000部が3ヵ月で在庫切れに

ハンディなものというのでは新書も適していますが、新書は装丁が一樣で仕掛け販売になじみにくいことがありました。いくら内容が良くつばな本を作っても、読んでもらえなければ無力です。手軽に買ってじゃまにならず、ちょっとした空き時間にでも読んでもらいたいと思ったからです。

実際、創刊の『26年2か月啄木の生涯』は、中学時代から啄木に傾倒した松田氏が、日記や書簡をもとにその誕生から亡くなるまでを、安易な脚色を避け淡々とあらわした評伝で、あまり類書がなく予想通り好評を博しました。初版2000部が3ヵ月で在庫切れになったのは、地方での出版事業が決して厳しいばかりではない可能性を見た思い

がしました。(1000部重版)

2作目、澤口氏の『宮澤賢治 愛のうた』はまもなく2000部に届くところまでできました。最新刊の『遙かなるカマイシ』も1000部が見えてきました。(いずれも11月末実績)

第二弾以降、読者アンケートはがきを挟み込みましたが、読者からの反応は概ね好評で、「良きも悪きもつぶさにわかり啄木が身近になった」「啄木がますます好きになった」「賢治の恋にこころが震えた」「賢治の人間味にあたたかさを感じた」「艦砲射撃当時の記憶がよみがえり作品に引き込まれた」といった内容の感想を頂戴し一部は店頭POPのキャッチコピーに使わせていただきました。

### 書店の応援、後押しも

書店さんでは、第一弾が定価も本体695円と中央の出版社が設定する水準に近かったこともあり、好感をもって応援していただきました。そういった書店さんの後押し展開が、年末年始に用事で盛岡にいらした、関東のとある大学の先生から講義のテキストに採用して下さるという申し出をいただくことになりました。

「もりおか文庫」創刊から丸一年が過ぎ、年2回という目標はどうか達成しましたが、先行きは不透明です。潤沢な事業資金を元手にスタートしたわけではなく、運営の基本は、やはり個人出版に頼るしかありません。

幸い、看板の文庫が宣伝効果を発揮し、本づくりに対して信用をいただけるようになりました。土台固めをしながら本来の企画出版を安定させて行きたいと思っています。

出版事業の目標は、今はやりの「産直」ではありませんが、盛岡・岩手にまつわる文芸資産(文化)の地産地消と掲げています。

書店勤務時代、地方オリジナルで目玉

となる差別化商品が出てこないものかと夢想することがたびたびありました。地方の書店が地元で独自のヒット商品を展開することが可能になれば、この出版不況でカンフル剤になるかもしれない。

地元関連本で、よく売れたにもかかわらず短期間で品切れ絶版となって行ったものが少なくありません。特定地域だけの売れ部数では重版するまでには至らな

いのでしょうか。

また、すでに著作権の切れた地元の文芸資産は資本力のある、中央の出版社が自由になった素材を活かし次々に作品化しています。地元について、歯がゆさを感じることもあります。というのも、地元文芸資産は時代が違っても同じ風土に暮らしてきた者だからこそ表現できることがあるのではないかと、思うからです。

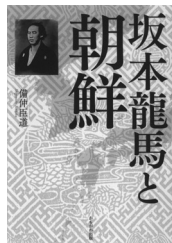
風土が育んだ文芸作品をそこに住む人たちがしっかり現実感を持ちながら味わっていき、自分たちの文芸資産を再評価してもらうために、文化の地産地消を目指して、今後も本づくりを続けていきたいと思っています。

(とちない まさゆき・盛岡出版コミュニティ代表)

## 新刊ダイジェスト

※価格は総額(税込)表示です。

### 『坂本龍馬と朝鮮』 ●備仲臣道著

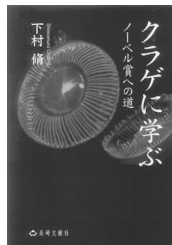


数限りなく出される龍馬本の中でも際立って異色の書と言えようか。それは、司馬遼太郎によって築かれた龍馬像を虚像として、終始龍馬批判の視点に貫かれていること、これまで誰も言及してこなかったと言ってもいいであろう龍馬の蝦夷地開拓と竹島開拓構想に光を当てることにより、知られざる思想性をあぶり出している二点にある。尊攘浪士を蝦夷地に移住させて開拓事業に当たら

せる構想が現実味もなく取え無く頓挫した後、勝海舟の強い影響を受けて、竹島開拓を手がかりに、征韓論に傾いていく。それは紛れもなく侵略主義であり、その思想を具現化したのが海援隊であって、共和思想もまやかしてであると言うのが著者の主張である。

◆1575円・四六判・173頁・かもがわ出版・京都・2010/10刊・ISBN978-4-7803-0389-6

### 『クラゲに学ぶ -ノーベル賞への道』 ●下村 脩著

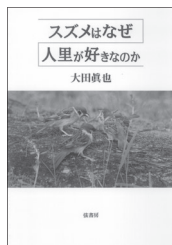


毎年夏になると一家総出でオワンクラゲを採集し、イクオリン(発光タンパク質)を抽出する。その数19年間でなんと85万匹!その結果が2008年のノーベル化学賞受賞につながった。著者はアメリカ在住の生物発光研究の第一人者。幼少時から渡米するまで過ごした長崎での思い出、被爆体験、恩師と巡り会い、アメリカでクラゲの研究に没頭する日々や家族のことなどが綴られて

いる。ノーベル賞受賞後は超過密スケジュールに見舞われ、いつになったら自分のペースで生活出来るのかと本音が垣間見える。重要な研究成果を挙げた著者だが、自然に学ぶことの大切さを強調し、若き研究者へのメッセージも込められた自伝となっている。

◆2520円・A5判・239頁・長崎文献社・長崎・2010/10刊・ISBN978-4-88851-157-5

### 『スズメはなぜ人里が好きなのか』 ●大田眞也著



私たちに最もなじみ深い鳥はスズメであろう。ある過疎集落がすべて「離村」となると、やがてスズメもいなくなるという。10年前の三宅島火山噴火で全島民避難離島の際は、スズメも姿を消した。その島民も5年前帰島が始まると、スズメもどこからともなく姿を現した。これはいったいどういうことか。スズメは、種子食(穀物食)である、人家は巣作りに最適である、天敵が多く

自然界で弱い立場にある、などがその謎を解く鍵となるようだ。本書はその中心テーマにとどまらず、スズメの生活を克明に観察しつつ、その種類や進化、分布、人類の文化風習・農業との関係等々、いわばスズメ大全ともなっている。そのスズメも近年急減し、共生について警鐘を鳴らす。

◆1995円・四六判・230頁・弦書房・福岡・2010/10刊・ISBN978-4-86329-048-8

### 『神様は本を読まない -吉野朔実劇場』 ●吉野朔実著



マンガ家である著者が「本」とその周辺を題材に描くコミックエッセイ。『本の雑誌』に連載されたものを一冊にまとめた。著者の作品は、繊細でシュール、少しものがない。毎々一冊か二冊の本をとりあげ、一回2~4頁の短編集。自身の作風を反映した本の好みは、和洋織り交ぜ絵本に始まりコミックや文学、アートから理工書まで幅広く独特な読書傾向だ。本と読書とそれなしで

は生きられないひとびとが当たり前存在する生活は摩訶不思議な味わいがある。何かを訴えるのではなく、空気を吸い込むように読み通り過ぎるように本を語る。巻末に翻訳家・柴田元幸氏との対談収録。上質なお酒のような本の本である。

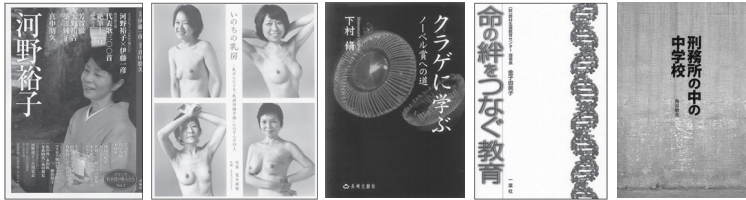
◆1365円・A5判・84頁・本の雑誌社・東京・2010/10刊・ISBN978-4-86011-209-7

# 売行良好書

期間：2010年11月16日～12月15日

【出荷センター扱い】 ※税込み価格

- (1) 『河野裕子』 1890円・青磁社 (2) 『いのちの乳房』 2625円・赤々舎 (3) 『クラゲに学ぶ』 2520円・長崎文献社 (4) 『命の絆をつなぐ教育』 2100円・一葉社
- (5) 『刑務所の中の中学校』 1470円・しなの書房 (6) 『新装版 不思議の国のアリス・オリジナル』 2100円・書籍情報社 (7) 『ルワンダ ジェノサイドから生まれて』 3465円・赤々舎 (8) 『ラブ&ピース』 1575円・寿郎社 (9) 『畜産市長の「口蹄疫」130日の闘い』 1680円・書肆侃侃房 (10) 『ぼくはこうやって詩を書いた』 2940円・ナナロク社 (11) 『まめたろう』 1680円・東京子ども図書館 (12) 『マビオン通りの店』 2100円・編集工房ノア (13) 『ズメはなぜ人里が好きなのか』 1995円・荻書房 (14) 『いい会社をつくりましょう。』 1260円・文屋



【三省堂書店神保町本店4F—センター扱い図書】 ※税込み価格

- (1) 『東京かわら版 12月号』 420円・東京かわら版 (2) 『夜想 ベルメール』 1575円・スタジオ・パラボリカ (3) 『河野裕子』 1890円・青磁社 (4) 『酒とつまみ 13号』 400円・酒とつまみ社 (5) 『いのちの乳房』 2625円・赤々舎 (6) 『円周率100万桁表』 330円・暗黒通信団 (7) 『琵琶湖のゴミ』 840円・サンライズ出版 (8) 『玄洋社・封印された実像』 2940円・海鳥社 (9) 『生活考察 2』 780円・辻本力 (10) 『山陰の古事記 謎解き旅ガイド』 500円・今井出版

【ジュンク堂書店新宿店—センター扱い図書】 ※センター出荷データより/税込み価格

- (1) 『ラブ歌謡大百科』 399円・スモール出版 (2) 『いのちの乳房』 2625円・赤々舎 (3) 『夜想 #ベルメール』 1575円・スタジオ・パラボリカ (4) 『神の詩 バガヴァッド・ギター』 2100円・T A O L A B (5) 『紅絹 夢吉のオールデコキモノ』 1785円・エフ・ディ (6) 『浅田家』 2730円・赤々舎 (7) 『河野裕子』 1890円・青磁社 (8) 『着物手帳 2011』 1200円・宮帯出版社 (9) 『マルクスで読み解く 労働とはなにか 資本とはなにか』 1890円・ほっとブックス新栄 (10) 『新しい製パン基礎知識 再改訂版』 1890円・パンニュース社

以下ホームページでも各種情報提供を行っております。ご利用ください。  
<http://www.bekkoame.ne.jp/~much/>

## トピックス — ★★


### ▼ 新大河ドラマ関連本

毎年恒例となった三省堂神保町本店4F地方出版フェアが、今年も暮れから新年1月16日まで開催されます。このフェアにも出品されますが、来年のNHK大河ドラマ『江～姉たちの戦国～』関連本が、浅井三姉妹の故郷・滋賀県のサンライズ出版から相次いで出版されました。11月に刊行され、初版がすでに品切となって増刷中の『浅井三姉妹を歩く』(長浜市長浜城歴史博物館編 1575円)は、三姉妹誕生の地・長浜市から福井、三重、東京と三姉妹ゆかりの地をめぐる歴史ガイドブック。『姉たちのふる里 近江戦国スケッチ紀行』(画:寺田みのる/文:木村至宏 2310円)は、滋賀県内の戦国時代の合戦跡や城跡等をスケッチとともに辿る画文集。12月刊『江・浅井三姉妹博覧会公式ガイドブック 一戦国の聖地を巡る』(江・浅井三姉妹博覧会実行委員会編 1260円)は北近江の覇者浅井氏の居城・小谷城址や石田三成の出生地など数々の史跡「戦国の聖地」を、宿泊ガイド・モデルコース付きで案内する内容。既刊のものとして、2009年刊の小説『浅井三姉妹物語 花々の系譜』(畑裕子著 1995円)、2005年刊行の同著者による『近江戦国の女たち』(1680円)、2008年刊『戦国浅井戦記 歩いて知る浅井氏の興亡 一近江旅の本』(長浜市長浜城歴史博物館編著 1890円)、『戦国大名浅井氏と北近江 一浅井三代から三姉妹へ』(同博物館編著 1890円)があります。また歴研刊『歴史研究 2010年12月号』(735円)の特集は戦国三姉妹の謎、「戦国三姉妹の基礎知識」 「江と三つの謎」等関連論文、エッセイを掲載。

## 郵便販売のご注文方法

- ◎お名前、お届け先(郵便番号、住所)、連絡先お電話番号、ご注文品の書誌名、冊数の必要事項を明記のうえ、下記までFAXでご連絡ください。
  - ◎送料は、冊子小包・メール便共実費でお送りさせていただきます。基本的にメール便は、一冊210円でお送り致します。(メール便の到着は、発送してから3～4日かかります。)お急ぎの方、その他ご要望がございます場合はお気軽に下記までお問い合わせ下さいませ。
  - ◎なお書籍お買上総計(税抜き価格)が5,000円以上の場合は、送料をサービスさせていただきます。
- ★地方・小出版流通センター  
FAX: 03-3235-6182

地方・小出版物のデータになります。綴じて保存してください。



# 三省堂書店

BOOKS SANSEIDO

**神保町本店 4階**  
**地方出版・小出版物フロア**

営業時間 10:00 AM～8:00 PM  
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-1  
TEL. 03-3233-3312(代)  
URL. <http://www.books-sanseido.co.jp>

営業の  
ごあんない

本店4階売場では、地方・小出版流通センター扱いの新刊全点のほか、地域別に書籍を取り揃えております。また、地域ならではのタウン誌、趣味の雑誌も扱っております。

